



平成 22 年 12 月 1 日

各 位

株 式 会 社 岩 手 銀 行
世 界 銀 行
株 式 会 社 大 和 証 券 グ ル ー プ 本 社

岩手銀行による「グリーンボンド」購入のお知らせ ～債券投資を通じて地球温暖化対策に貢献する～

このたび、株式会社岩手銀行（本社：岩手県盛岡市、頭取：高橋真裕、以下「岩手銀行」）は、世界銀行（国際復興開発銀行）が新規に発行する「グリーンボンド」を購入し、本日払込が完了しましたので、その概要についてお知らせいたします。

グリーンボンドとは、世界銀行が資金拠出を行っている事業のうち、地球温暖化の要因を取り除くこと、あるいは地球温暖化により引き起こされる諸問題に対処することを目的に開発途上国で実施される事業を支援するために発行される債券です。グリーンボンドで調達した資金は、世界銀行の環境専門家が一定の基準に基づいて選定した地球温暖化対策事業、具体的には、代替エネルギーの導入、温室効果ガスの排出を軽減する新技術の開発支援、森林再生、河川流域管理、洪水対策などの事業を支援するために活用されます。世界銀行は、これまで17億米ドル相当のグリーンボンドをユーロ市場において発行してきました。

今回のグリーンボンドは岩手銀行の要望により発行されたもので、発行総額 1,000 万米ドル全額を岩手銀行が購入しております。引受けディーラーには、大和証券グループのホールセール証券会社である大和証券キャピタル・マーケット株式会社指名され、発行のアレンジを担当しました。「地域社会の発展に貢献する」ことを経営理念のひとつとして掲げる岩手銀行は、これまでも「地域貢献シリーズ」定期預金や「いわぎんエコ私募債」などを設計し、本業を通じた地域貢献を行ってまいりました。

岩手銀行 常務取締役の吉田政司氏は次のように述べています。

「緑豊かな自然に恵まれた岩手県を基盤とする岩手銀行では、環境保全への取り組みを積極的に推進しており、これまでも地域の美化運動への参加や、地域における環境事業の支援などに取り組んできました。

このたび、当行の資金運用の選択肢に社会的責任投資を加えることとし、グリーンボンドの購入を決定いたしました。グリーンボンドへの投資は、資金運用を行いながら地球温暖化対策事業を支援できるという点で、預金者の皆様からお預かりした資金を有効に活用できる非常に意義のあることだと考えております。」

世界銀行 財務局駐日代表の有馬良行氏は次のように述べています。

「地球温暖化問題の解決には民間資本市場からの資金が不可欠です。これを実現する手法の一つとして世界各国の投資家がグリーンボンドに注目する中、新たに日本の地方銀行の岩手銀行がグリーンボンドにご投資頂いたことに深く感謝しております。日本の機関投資家のグリーンボンド投資としては三件目であり、今後ともより多くの投資家の皆様のご支援を頂けるよう努力して行きたいと思っております。」

また、大和証券株式会社 常務取締役の中村比呂志氏は次のように述べています。

「大和証券グループでは、投資を通じて社会に貢献することを目指す『インパクト・インベストメント』を推し進めております。これまでに、国内初となるグリーンボンド（2010年1月発行）を取扱う等の実績を残してきました。このような取り組みの中で、今回、世界銀行と岩手銀行との架け橋となれたことを、非常に喜ばしく思っております。」

地球温暖化のような環境問題の対策には多額の資金が必要であり、日本の投資家の皆さまの資金をいかに活用できるかということが、解決に向けた大きな糸口になると考えています。我々証券会社の責務は、持続的な社会形成に寄与する金融機能の構築です。今後も日本に社会貢献投資の流れを広めるべく、努めて参ります。」

発行概要

発行体	世界銀行（国際復興開発銀行：IBRD）
起債通貨	米ドル
発行総額	1,000 万米ドル
受渡日	2010年12月1日
償還日	2015年11月30日
各債券の金額	100 万米ドル
主幹事	大和証券キャピタル・マーケット



■ 岩手銀行について

岩手銀行は、岩手県盛岡市に本店を置く地方銀行です。昭和 7 年に創立した伝統ある銀行であり、岩手県が主要な営業基盤です。県内における預金等シェア・貸出金シェアは、地銀・第二地銀・都銀・信用金庫のなかでトップを占め、地域へ安定的かつ良質な資金を供給しています。現在は、長期ビジョンとして掲げた『東北で最高のクオリティとそれにふさわしいスケールをもつ銀行』の実現に向けて取り組んでいます。

「地域社会の発展に貢献する」「健全経営に徹する」という 2 つの経営理念のもと、地域との共存共栄を目指し、地域密着型金融を推進しています。

■ 世界銀行 (IBRD) について

1945 年に設立された世界銀行 (International Bank for Reconstruction and Development) は、世銀グループのうち最も歴史が長く、また単一機関としては最大の開発資金の融資機関となっています。IBRD は中所得国および信用力のある貧困国に融資、保証、および分析・助言サービスなどの非融資業務を提供し、持続可能な開発を推進することで、これらの国の貧困を削減することを目指しています。過去の融資から得られた利益は、開発活動の原資になるだけでなく、IBRD の財務の健全性を示す指標となり、IBRD が資本市場から低利で資金を調達し、借入国に緩やかな条件で融資を提供することを可能にしています。その平均貸出期間は 15~20 年 (うち据置期間 5 年) で、金利は IBRD 自身の借入れコストに応じて半年ごとに変動しています。

IBRD 融資の原資は、資本市場からの借入、加盟国からの出資金、留保利益、IBRD 貸付金の回収で賄われ、そのうち市場での借入が最大の資金源となっています。また、各加盟国は出資金のごく一部を実際に払い込み、残額は世銀から請求された場合にのみ支払います。払い込み請求は IBRD が投資家に対する債務を履行することができない場合に限られ、今日まで請求されたことはありません。IBRD の理事会は 186 の加盟国を代表する 24 名の理事で構成されています。このうち 5 名は任命理事、19 名は選任理事です。日本は、1952 年に IBRD に加盟しました。

■ 大和証券グループについて

大和証券グループは、1902 年創業の日本を代表する独立系総合証券グループです。グローバルなネットワークにより、世界中の顧客に対し資産形成や企業活動の支援といった金融サービスを提供し、社会及び経済の発展に貢献しています。主要な事業は、エクイティ、債券、デリバティブおよびその他金融商品の開発・提供、エクイティ・債券等の引受業務、M&A をはじめとするアドバイザー業務に加え、アセットマネジメント業務やプリンシパル投資です。

大和証券グループの営業拠点は、日本をはじめ、米国、欧州、およびアジア・オセアニア地域に広がっています。世界中に約 16,000 人の従業員を抱え、顧客からの預り資産残高は約 42 兆円、グループのアセットマネジメント会社 2 社の運用資産残高は合計で約 13 兆円です。リテール事業を行う大和証券では 120 の店舗網、約 338 万件の顧客口座数を有し、ホールセール事業を行う大和証券キャピタル・マーケットでは 21 の国と地域に 30 の拠点を有しています。(数字は全て 2010 年 9 月末現在)

以 上